広報編集室 げんきまち通信

ウポポイが開業し、８月12日でちょうど１カ月。新型コロナ感染症対応に伴う予約制という制限下ながら、来場者は道内外からの約３万５千人を超えました。その中核施設・国立アイヌ民族博物館を訪れた来場者の評価は高く、「感動」というお土産を持ち帰ったようでした。

広報紙としても、少しでもこれから足を運ぶ町民の方の理解の手助けに―と、同博物館の研究学芸部展示企画室長の田村将人さん（44）に伺った、基本展示室の展示の意図やいくつかの展示品の特徴、裏話を紹介します。

予備知識で100倍楽しもう!?

ウポポイの中核施設

アヌココロアイヌイコロマケンル

国立アイヌ民族博物館

知ってました？これ！

笑顔で丁寧に解説してくれた田村展示企画室長

第一言語はアイヌ語

スタッフの説明の始まりは「ウポポイ内の第一言語はアイヌ語です」から。全ての場所・施設などにアイヌ語表記がされています。国立アイヌ民族博物館は「アヌココロアイヌイコロマケンル」。この意味は「私たちが共有するアイヌの宝物が入った建物」という。なんてすてきな名称でしょう。そうなんです。「国立」とか「博物館」に見合ったアイヌ語、つまり直訳はなく、全ての表記を内部職員のみならず、外部のアイヌ語の専門家や実践者を交え、１年以上をかけて検討した苦労の跡でもあるのです。ちなみにアイヌ民族かどうかに限らず、スタッフ全員がアイヌ語名を持っています。

なるほどザ・プラザ展示

基本展示室は六つのテーマで構成。入り口からすぐ目に入るのが円周上にケースが並ぶプラザ展示。六つのテーマの代表的な資料を展示する〝要約版〟です。ケース一個一個に分かりやすい解説文が貼られ、ここだけでも見応え十分。その外周に各テーマの詳しい資料展示がされています。それら円の中心がテーマ「私たちのことば」で、アイヌ民族自身が書き残した文書を展示しています。逸品は遺族から入手した、アイヌの言語学者・知里真志保（現在の登別市出身、1909～1961）の単語調査カード。辞典を編むために自作したということです。

プラザから「対」の鑑賞で外周へ

プラザから外周に至る経路はケースで挟まれた通り道があるが、ここでまた、足を留めてください。例えばテーマ「世界」「くらし」へ行くために通る二つのケースは儀式時の正装を展示していますが、右に女性、左に男性というように。意図を推測しながらも一興です。

布物、書物など紙類はおよそ2カ月ごとに衣替え

保存状態を保つためや借用条件などからが理由らしいです。「これもお楽しみの一つになりますね」。リピートのお誘いでした。

順路は特に設けていませんが、時計回りかな

ということです。外周の展示はどこも独立しています。